

小諸市動物園の 再整備に向けて

 — No. 2

施設の老朽化、飼育動物の高齢化、多様化するニーズに対応するため、動物園の再整備が求められています。今回は、有識者から見る小諸市動物園のあり方についてお知らせします。



(公社) 日本動物園水族館協会
専務理事
成島 悦雄氏

動物園は家族で楽しい時間を過ごせる場所である。動物園で過ごした時間は家族の良き思い出となる。そればかりではない。動物園に足を運ぶことで、生きている動物を間近に見て動物の魅力を発見できる。図鑑や映像では代替えできない動物の不思議を実体験できる場所が動物園である。

しかし、動物園で暮らす動物のおかれている状態がみじめなようでは、素晴らしい実体験もすぼんでしまう。動物園は動物に健康で快適に過ごせる環境を提供するとともに、そこで働く職員にとっても安全で安心して働け、自分の能力をスキルアップできる場所である必要がある。これらの環境を整えることで、動物園の目的である環境教育や希少動物の保全活動が効果的なものになる。

国の違いや動物園の規模の大小にかかわらず、高い水準の動物福祉を保った飼育管理を行うことをベースに、健康に幸福にくらす動物園動物を使ったさまざまな動物園活動を展開していくこと、これが世界の動物園の共通目標である。



(公財) 東山公園協会
教育普及部長
橋川 央氏

地方都市における市営動物園の利用者のほとんどは市民であり、レクリエーションや憩いの場、また動物や環境のことを知る教育施設として活用しています。長野県は東京都（都立、市立、区立動物園がある）に次いで、北海道や愛知県と並び4市に公立動物園があり、動物園に意識の高い県といえます。

しかしながら、小諸市動物園は90年近い歴史があることで、施設の老朽化、展示方法の見直しなど多くの課題が見られます。

今回の再整備は、市民の皆さんが自分たちの動物園の方向性や地元の動物園にどんな動物がいるといいかを考えていただくいい機会です。もちろん世界的に唱えられている動物園の役割といったことも考慮していただき、小諸市動物園がより良い施設になるように応援していただくことを願います。

☎ 懐古園事務所 ☎ 22-0296

小諸市ベトナム経済・企業・人材交流調査事業

ベトナム国家大学

ホーチミン市校工科大学と覚書締結

小諸市長を団長として市議会、商工会議所、金融機関からなる調査団を結成し、10月10日～14日にベトナムを訪問しました。

参加者それぞれの立場から小諸の経済の発展方法を探るとともに小諸市との人材交流を目的として、またジェットロ（独立行政法人日本貿易振興機構）と経済産業省が実施する「対日投資サポートプログラム」の支援対象自治体24都市に小諸市が選定されたこともあり、対日投資の可能性を探るために、成長著しいベトナムの経済状況を調査してきました。

実際に現地を訪問することでベトナムの国の勢い、工業団地の圧倒的な規模、国際的な視野に立った経済活動の必要性を感じました。そして、成果の一つとしてホーチミン市校工科大学と覚書を締結しました。この覚書は双方が経済活動を活発化するために技術面、人材面等の協力を進めるための包括的な覚書となります。今後はこの覚書を基に、将来的な双方の発展を図っていきます。

☎ 商工観光課 企業立地定住促進係



海外企業誘致を積極的に
行うピンズオン省政府を視察。
トラン・タラン・リーム人民委員
長と面会。



ベトナム国家大学
ホーチミン市校工科大学と覚書を締結。

その他、在ホーチミン総領事、ジェットロホーチミンなどの政府関係機関や日系企業、ベトナムとシンガポールの国営企業の合併会社により造成された工業団地（VSIP）等を視察。